2024年度フィールドスタディ・地域活性化論実施報告（ホームページ掲載）

科目名	**フィールドスタディＣ**	**教員名**	**中澤高志**
実習先	大分県別府市・佐伯市		
実習期間	2024 年 8 月 5 日（月）～8 月 8 日（木）		
テーマ	地方都市の現場		

目的（実習のねらい）：

別府市でのテーマ：「地方都市のグローバル化」

温泉観光地として知られた別府市は、多くの留学生を擁する大学の存在と、インバウンド観光の活発化によって、地方都市でありながらグローバル化を肌で感じることができるフィールドである。そこに身を置くことで、多文化共生社会とは何かについて考えてみたい。

佐伯市でのテーマ：「自らなりわいを創る」

「田舎暮らしは魅力的だが、仕事はどうする？」と考えるとき、どうしても「雇われて働く」という選択肢にとらわれがちである。しかし、佐伯市のような地方小都市でも、雇われるのではなく、自らなりわいを創り出すことで、日々自分らしく暮らしている人々が現れ始めている。そういう人たちのバイタリティ溢れる生きざまに接することで、オルタナティブな生活の可能性について考えてみたい。

実習報告：

８月５日（月）

大分県別府市は、古くから知られた温泉観光地である。留学生を積極的に受け入れている大学が2000年に開学したことによって、数多くの留学生が暮らすようになった。これに近年のインバウンド観光の伸びが加わって、別府市は多文化共生・国際観光都市として知られるようになった。

まずは別府市の多文化共生に長くかかわっておられる大塚さんに、別府市の多文化共生の現状について説明してもらった。わかりやすいパワーポイントによる説明によって、ムスリムの増加に伴って、イスラームの教義に沿った土葬墓地が必要とされる一方で、その建設をめぐる住民との対立があることを知る。

午後、多文化共生の象徴的な場所である別府マスジド（モスク）を訪れ、まずは礼拝を体験。そのあと、別府ムスリム協会の代表である立命館アジア太平洋大学のカーン教授から、別府でのイスラームの基本的事項や別府でのムスリムの生活についてお話を伺う。対面でのコミュニケーションは、他者理解の基本。短時間ではあったが、イスラームを身近に感じることができた。

夕方、鉄輪に移動。温泉につかり、地獄蒸し料理を賞味。みんなでスーパーに買い出しに行って、自炊するのが楽しい。宿泊は鉄輪らしい湯治宿。

８月６日（火）

鉄輪から貸し切りバスで佐伯に移動し、古い歯科医院を改装したコミュニティカフェ KIISA で船頭町のリノベーションについて説明を受ける。昼食をはさんで、船頭町のリノベーションの現場を見る。

夜は船頭町の友人たちが交流会を開いてくれた。

8 月 7 日（水）
終日グループに分かれて調査。各グループの学生は、なりわいを創っている 3 人に、自分たちでアポイントを取り、佐伯市内をぐるぐると調査して回る。

8 月 8 日（木）
10 分ほどの船旅で大入島へ渡り、宮本さんが手掛けている最新鋭のカキの養殖を見学。

最後のまとめの回では、参加した学生が一人一人自分の言葉で、フィールドスタディで学んだことを語る。毎年毎年、学生引率はくたびれる仕事だが、やってよかったと実感する時である。

成果:

事前学習から実習、そしてレポート作成までの、すべての過程において、学生は多くのことを学んだ。地方都市の多くは、人口減少に直面し、地域経済にも明るい話題は少ない。それでも、自らなりわいを創って生きている人たちは、とても輝いている。学生の多くは東京でビジネスマンになる道を歩むのだろうが、そうではない生き方もあることを学んでくれたようだ。それもこれも、毎年フィールドスタディを支えてくれる人たちのおかげです。これからもよろしくお願いいたします。

以上

中澤　高志　専任教授